

質問日	令和2年6月5日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	創造浜松	議席番号	36	氏名	関 イチロー
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 新型コロナウイルス感染症について	<p>新型コロナウイルス禍における影響は、市民生活・経済活動全般に様々な深刻な影響を及ぼしている。市民の協力や関係機関・本市職員の対応は適切で評価でき、小康状態に移行してきている。かといって、これで安心できる訳ではなく、この状況を維持し、経済活動を回復させることと今後起こるであろう第2波以降を想定し、それに備えることが重要である。</p> <p>刻々と変化する状況において、本市の今までの、そして今の、さらにはこれからの状況と対応・対策について伺う。</p>						
(1) 今までの経緯と現状、今後の方針について	(1) 今までの経緯と現状について、また今後の方針について伺う。						鈴木市長
(2) 健康・医療・福祉の分野について	<p>(2) 健康・医療・福祉の分野について</p> <p>ア 保健所の対応や医療機関との連携体制について伺う。</p> <p>イ 入院・軽症者療養、罹患可能性のある医療関係者の宿泊施設、救急医療体制について伺う。</p> <p>ウ 高齢者施設の今までの対応及び今後の留意点について伺う。</p>						鈴木医療担当部長 〃
(3) 教育委員会案件について	<p>(3) 教育委員会案件について</p> <p>ア 臨時休業中の学びの保障のための取組と今後心配される第2波に備えるための対応について伺う。</p> <p>イ 臨時休業に伴い心配される不登校や虐待等子供たちや家庭の状況、今後の対応について伺う。</p> <p>ウ 放課後児童会の今までの様子及び今後の対応について、また、委託事業に変更となったモデル事業について伺う。</p>						山下健康福祉部長 花井教育長 〃
(4) 市民生活、産業・経済分野について	<p>(4) 市民生活、産業・経済分野について</p> <p>ア 現在までの生活保護申請者の推移、また、定額給付金の申請・支給状況について伺う。</p> <p>イ 雇用維持の点から今までの対策に見落としはなかったのか。また、今後の課題及び見通しについて伺う。</p> <p>ウ 企業に対して様々な支援事業があるが、有効に活用され、事業継続及び資金繰りにつながっているのか。また、課題はあるのか伺う。</p> <p>エ 事業承継を推し進める考えについて伺う。</p> <p>オ 各産業（特に工業・商業、一次産業、金融）分野が受ける影響について伺う。</p>						伊熊学校教育部長 山下健康福祉部長 宮城産業部長 〃
(5) 財政について	<p>(5) 財政について</p> <p>財政調整基金を取り崩し、20億円を予備費として計上する令和2年度一般会計補正予算（第1号）を専決処分</p>						森本財務部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(6) 危機管理という観点について</p> <p>(7) 職員について</p>	<p>した。それにより、歳出の自由度が増し、早急で柔軟な対処が可能となった。しかし、年度当初にあった43億7000万円余の財政調整基金は、基金繰入金などにより、残高は大幅に減少していると承知している。さらには、財源の確保のために、付け替えや流用を行い、大変苦心・工夫をし運営を行い、苦勞のほどを察しているところだが、今後も予断を許さない状況が続き、単年度で終わりそうもなく、税収の見通しもおぼつかない状況を勘案したとき、今日までの経緯と今後の見通しをどのように考えるか伺う。また、20政令市中財政状況が比較的良好、トップクラスと言われる本市の優位性についても伺う。</p> <p>(6) 危機管理という観点について 感染症対策・計画については、現時点では運用面で対応すると具体的に盛り込んでいるようだが、例えば、昨年にもあった台風と、コロナ禍などにおける複合災害も想定した対策をしているのか伺う。</p> <p>(7) 職員について 新型コロナ禍の状況の中、本市職員が、通常業務以外の業務が非常に増大し、肉体的にも精神的にも多くの負荷を背負いながら、的確で迅速な対応を行い、任務を遂行していることに感謝と敬意を表す。そのような中、過度な仕事量や勤務時間に伴う体調の変化や疲労についての対応は万全であるのか伺う。</p>	<p>小松危機管理監</p> <p>金原総務部長</p>
<p>2 放課後児童会について</p>	<p>「負担金方式」と「委託方式」が混在する放課後児童会の運営方式について、市が実施主体となる「委託方式」へ統一するために令和元年度から運営委託化モデル事業を実施している。</p> <p>また、令和5年度の市内統一を目指して検討を進めているところであり、国の考え方や、現在一部の放課後児童会で実施している運営委託化モデル事業の検証を踏まえ、必要な事業費を把握し、適正な利用者負担の割合を設定していくとしている。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 令和元年度の施行状況はどのように反映され、令和2年度の委託事業者選定に活かされたのか。また、2年に及ぶ選定の評価基準は何をもって行われ、本年度のモデル事業の評価をどのようにして、透明性を担保するのか、さらには地域との関係性について伺う。</p> <p>(2) 令和5年度までに全市委託化、さらにはばらつきのある諸条件をクリア・統一できるのか伺うとともに、工程表、年次ごとの委託箇所数の推移、委託業者の評価・選定、制度設計、制度の統一、BCP（事業継続計画）などの方針を伺う。</p>	<p>伊熊学校教育部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(3) 待機児童数の推移及び行政区ごと、学年ごとの児童数をいかに解釈し、対応をしていくのか伺う。</p> <p>(4) 放課後子供教室との整合性について伺う。</p>	
<p>3 総合戦略について</p>	<p>第2期浜松市“やらまいか”総合戦略は、浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議において、委員から様々な意見が寄せられ策定したが、委員からの意見をどのように総括し、方針や数値評価の見直しなどに反映したのか伺う。</p> <p>また、夫婦の平均出生子供数である完結出生児数は、2.0に近い数値で推移しており、結婚を促す施策に注力すべきと考えるがどうか伺う。</p>	<p>内藤企画調整部長</p>